

声かけ（補導）活動について

福山市青少年センターでは、福山駅をはじめ市内各駅での朝の声かけ活動のほか、市内の学校周辺や公園、商業施設、ゲームセンターなど子どもたちが集まりそうな場所へ出向き、声かけ活動を行っています。



2021年度は、「指導員の窓」にもあるとおり新型コロナウイルス感染症対策で休むことが増えたため生活リズムが崩れたことも影響したのか、例年と比較して遅刻が圧倒的に多い年でした。幸い、ここしばらくコロナの新規陽性者数が減少傾向にあります。かつてのスペインかぜは丸3年を待たずして収束したとのこと。このまま新型コロナウイルスが収束し、一日も早く子どもたちがマスクの下の笑顔を見せてくれる日が訪れることを願って止みません。

行為	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
喫煙										2			2
怠学	2	10	7	18	2	11	19	9	6	2	7	4	97
遅刻	28	44	75	35	8	115	87	108	92	48	38	27	705
飲酒													0
家出													0
自転車				2		6		2		2	2	2	16
スケートボード	22		2		8		2	1	8	4	22	21	90
その他	14	4	6	7		10	12	11	4	5	16	11	100
計	66	58	90	62	18	142	120	131	110	63	85	65	1,010

指導員の窓

新型コロナウイルス感染症との共存は3年目を迎え、最近ではワクチンの効果もあり、少しずつ世の中が戻り始めている。

学校や行事も『新しい生活様式』を取り入れながら再開されている。

しかし子どもたちは、これまでに経験したことのないような学校生活、家庭生活を送ることになり、とまどいや不安を感じていることは確かだ。

午前中、福山駅周辺には"寝ぼう"を理由に遅刻をして登校する高校生が増加傾向にある。そしてその多くは、さほど心配するところが見当たらない。ここにも、コロナ禍による休校や分散登校、そしてオンライン授業が長引くなど、生活リズムの乱れによる影響が出ている可能性がある。



ただ、明らかに症状が出ているケースもある。夜寝付けず、朝起きられないなどの症状がある『起立性調節障害』を抱える中学生、朝、目は覚めるのにめまいがして起き上がれず、頭痛や倦怠感に苦しんでいる高校生。その高校生は、調子の良い日だけ登校している状態だと打ち明けてくれた。いつものように励ました

い思いから"頑張って!"と言葉に出してしまいそうになる。でもこの子は十分に頑張っているんだ…と心に留め、"無理しないようにね、気をつけて行ってらっしゃい"と見送る。コロナ禍において、子どもたちにも新たな問題が見えてきたが、何が出来るのかを模索しながら、自分を見ていてくれるという安心を感じて貰える、変わらない存在でありたい。(田坂)



青少年育成員・中央青少年育成員の委嘱について

今年度は2年に一度の育成員の委嘱替えをさせていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響のため委嘱式は中止とさせていただきましたが、継続の方も新規の方もよろしく願いいたします。

中央青少年育成員のコーナー

青少年センターの指導員を辞して3年余りになります。現在は、中央青少年育成員と補導協助手として、福山市郊外の田園風景の広がる小さな地域で活動しています。福山市中心部のような大型商業施設、ゲームセンターやカラオケといった娯楽施設はないため、喫煙や遅刻などの声掛けはほとんどなく、学区内の小学生の登下校時の挨拶や見守り、中学校の挨拶運動や校内巡回、近くの公園での声掛けや見守り、最寄り駅での挨拶や自転車盗難防止の二重ロックの呼びかけなどが主な活動です。

最近の挨拶や声掛けを通して感じることは、やりにくくなったということです。それは、コロナ禍でお互いにマスクをしているため、相手の人相がわからないし、表情が見えづらいということに起因しているのではないかと思います。それゆえに、子どもたちに警戒されたり、声掛けをしても言葉が返ってこなかったりということも少なくありませんでした。子どもたちは、声を掛けてくるマスク姿の大人を警戒しているのかもわかりません。だからこそ、マスクの下に隠れている口角を上げて表情豊かに、声は明るく大きく、「おはよう。行ってらっしゃい」「今日も暑く（寒く）なるから気をつけてね」「おかえり。今日も頑張ったね」「もう少しだから気をつけて帰ろうね」などの気持ちを込めた言葉かけを行うようにしています。

中国新聞の天風録に、広島で3年ぶりに開催された全国ろうあ者大会のことが載っていました。その一部を紹介します。「旧交を温めるのに対面に勝るものはない。あいさつ一つにしても自分から相手に、今度は相手から自分へとめぐる。循環するうちに心が通ってくる。」そして、俵万智さんの『寒いね』と話しかければ『寒いね』と答える人のいるあたたかさ」と続きます。

コロナ禍で当たり前のことがなかなかできない今だからこそ、人と人の絆が求められる時だと思えます。「おはよう」と声をかければ、「おはよう」と応えてくれる人のいるあたたかさが感じられる、そんな心と心が触れ合え、心があたたかくなるような言葉かけをしていくことが大切だと思います。（瀬尾）

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です（内閣府）。「第72回 社会を明るくする運動」も同時に展開され、「再犯防止啓発月間」にも定められています（法務省）。

内閣府では学校が夏休みに入る毎年7月に関係省庁・地方自治体および民間関係団体と連携しながら総合的な非行・被害防止活動を展開しています。

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

また、「再犯防止等の推進に関する法律」（再犯防止推進法）第6条に、国民の間に広く再犯の防止等についての関心と理解を深めるため、7月を再犯防止啓発月間とする旨が定められています。

福山市でも保護司会など関係団体と連携し、非行・被害防止活動や啓発活動等を行っています。

編集後記 青少年センター所長より

4月の人事異動により青少年センター所長に着任しました宮谷です。どうぞよろしくお願いいたします。着任以来、当然のことながら、今の子どもたちの状況にふれる機会が増えました。当たり前が当たり前で無くなったコロナ禍の中で、子どもたちが懸命に学校生活を送っていることを痛感しました。そうした子どもたちが安心して過ごせることができるよう、また、道に迷ったら適切な道案内ができるよう、青少年センター職員一丸となって子どもたちと向き合っていきたいと思えます。

地域の皆さまも引き続きのご理解とご協力をお願いします。（宮谷）



発行者 福山市青少年センター 〒720-0831 福山市草戸町五丁目12番3号（青少年・女性活躍推進課内）
電話 084-928-1046 Fax 084-927-9121 seishounen-josei@city.fukuyama.hiroshima.jp